

国際交流員の活動日誌

vol.45



Information

市政だより英語ダイジェスト版を市役所、総合支所、保原駅、梁川駅で配布しています。

「スロークッカー」 Slow Cooker

12月はクリスマス。アメリカの多くの子どもにとってクリスマス朝は幻想的です。起きてすぐ、クリスマスツリーの下にあるプレゼントを探しに走っていきません。もちろん、もう何年も経験していませんが、スロークッカーという調理器具の中に料理ができています。朝は同じようにワクワクします。眠っている間に入れた材料が魔法のように美味しく化けているからです。

料理ができる陶磁器の電気製品です。値段が安くて硬い肉や豆の料理が簡単に美味しく作れるので節約になります。米国の大学院で勉強していた間はお金も時間もほぼなかったので助かりました。米国では、朝ご飯を作ると同時にスロークッカーの中に材料を入れ、仕事から帰ってできあがった料理を夕食に食べる人が多いです。

しかし日本ではあまり使いません。米国にある硬い肉と乾燥した豆は日本では見かけませんし、和食の材料をうまく使えるかまだわかりません。今までカレーはおいしく作れていましたが、これから日本の食材でいろいろな料理を作ってみたいです。

来たる年末年始にスロークッカーで煮た物と発芽玄米で丼物を作る事が楽しみです！

地域の魅力 ふる里再発見

企画展の展示品

～六代夫婦之像～

企画展

救出された文化財

10/3(土)～1/25(月)まで
保原歴史文化資料館



絹本着色、縦75・6センチ、横36・4センチの掛軸です。成立は「庚午」とあり、明治3年（1870年）です。三つ組盃と銚子を前に、正装して安座する初老の夫婦が描かれています。梁川近隣に住む、苗字帯刀を許された郷士身分の篤農家と思われまます。対面する夫婦は極めて穏やかな表情です。羽織の家紋は四つ割り菱です。図上の賛文は末代までの一家の繁栄を祈願するもので、正月・盆・命日など特別な日にだけ床の間に掛けられました。家族にとつて、一族繁栄の基盤となつた6代目の夫婦は崇拝される存在でしたが、人物像は詳しく知られていません。

肖像画を描いたのは金子蘿葡です。蘿葡は天保13年（1842年）武蔵国埼玉郡粕壁（埼玉県春日部市）に生まれ、父龍助から絵画を学びました。17歳ごろから諸国を遊歴、明治3年（1870年）、蘿葡が28歳頃より梁川に住み、花鳥・人物などを描きました。県北を中心に作品が数多く残っています。その傍ら、近隣の蚕種家の求めに応じて明治16年（1883年）『温養蚕事図解』など、養蚕技術書の挿絵を手掛けました。明治20年（1887年）ころには蚕種製造の作業工程を描いた『伊達養蚕実況之図』を制作し、養蚕画家として名を馳せました。大

正4年（1915年）に死去しました。墓所は称名寺境内（梁川町）にあります。